

まだまだ暑い日がありますが、秋になり、紅葉も目の前です。「**の秋」といろいろ言われていますが、例えば読書は頭を回転させ、老化を防ぐ効果もあるようです。今秋は思い切ってふだん読まない本を読むなどし、読書に親しんでみませんか。

■今年もインターンさんがこられました！

去る8月28日(月)に、今年も当センターにインターンさんが来られました。伊達琴美(だて ことみ)さん(大学生)です。当センターの事業や取り組みについてレクチャーを行った後、映像の聴覚障害者用字幕入れ作業を体験していただきました。伊達さんから、感想をいただきましたので紹介します。

今回インターンシップで、こちらで勉強させていただきました。

学習漫画やネットで、手話や聴覚障がいについて、ある程度は認識していたつもりでしたが、お話を聞いて自分の知識不足を実感しました。

映画の字幕も私にとっては分かりやすく、それさえ見れば誰でも内容がより理解できるものだと思っていましたが、全く違うことを知ることができました。

また、手話や点字だけでなく指文字という方法があり、盲ろうの方は、その方法でコミュニケーションをとっているなど、新しい知識が吸収できて、とても有意義な時間を過ごすことができました。

職員の方たちも、優しくていねいにご指導いただき、ありがとうございました。



字幕入れ作業を体験する伊達琴美さん



■『平成29年度多気町総合防災訓練』の講習に当センターから協力しました！



講習は2回に分けて行われ、36名が参加されました



当センターは、災害時に被災した聴覚障害者への支援活動を行う拠点として位置づけられています。また、平常時は「避難所への支援」のために、地域へ聞こえないことや災害時に支援してほしいことについて、啓発を行っています。

9月3日(日)に行われた多気町総合防災訓練では、三重県、三重県警察、自衛隊、松阪地区広域消防組合、みえ・防災減災センター、医師会、多気町災害ボランティアコーディネーター、相可高等学校など、20近くの協力機関の協力の下に、トレーニングセンターで救急救命訓練やロープワーク訓練、災害対応シミュレーション講習等、さまざまな講習が行われました。

当センターも今回初めて参加し、『避難所における災害弱者対応講習』を行いました。「聞こえないこと」「災害時に支援してほしいこと」また簡単な手話講座などを実施し、好評でした！



屋外では人命救助や負傷者搬出の講習も！

三重県聴覚障害者支援センター

三重 聴覚



〒514-0003 三重県津市桜橋2丁目131 三重県社会福祉会館5階 FAX(059)223-3301/TEL(059)223-3302

http://www.deaf-mie-center.com/ e-mail: deaf.mie-center@vivid.ocn.ne.jp

□利用時間 午前8時30分～午後5時 □休館日 土曜日、日曜日、祝日、年末年始

字幕映像ライブラリー NEWS

9月1日は『防災の日』です。大正12年9月1日に発生した、10万人以上の死者・行方不明者を出した『関東大震災』に由来しています。台風、津波、地震等の災害に対処する心構えを準備するためとして、昭和35年制定されました。ということで今回は防災に関する番組を紹介します。

「借りたいけど、なかなかセンターに行くヒマがない～」とお嘆きのアナタ、大丈夫です。郵送で貸出や返却ができるんです。詳しくは当センターホームページで！



■ 今回のイチオシ作品 『今から始めましょう ～聴覚障害者の防災～』

聴覚障害者向け映像ライブラリー
(厚生労働省委託事業)

A-3

今から始めましょう ～聴覚障害者の防災～

(平成28年度制作)

分類番号: XE2016-001
時間: 33分
制作・提供: 聴覚障害者情報文化センター

(社福) 聴覚障害者情報文化センター

昭和から平成の現在までに日本で発生したM7クラスの地震は全部で49回です。おおよそ1.8年に1度の割合で起きています。2011年の東日本大震災以降では、熊本県でM7(2016年4月)、鳥取県ではM6.6(2016年10月)と大地震が相次ぎました。

このように地震の多い日本ですが、日ごろから地震に対して備えている人はまだ少ないのが現状です。

阪神・淡路大震災をきっかけにできた「防災士」の役割について、防災士研修センターの代表取締役・甘中繁雄さんにお話を伺うとともに、防災士の資格を取得した聴覚障害者にも防災について話を伺っています。

南海トラフ地震が発生したら、三重県では多大な被害が出るのが予想されます。ぜひ、これを観てください！

■ 合理的配慮の例：センター受付に「助聴器」を備え付けました！

聴覚障害と言っても、人により聞こえはさまざまです。

加齢により、だんだんと聴力が衰えてきたことを、窓口でのやり取りで自覚をすることもあるのではないのでしょうか。

また、補聴器を使わなくとも耳元で大声で話しかけることで、やり取りができる「軽度難聴」の方もおられます。

この度、当センターの窓口には『プリモ 携帯型助聴器 聴六』を設置しました。センターに来られた利用者さんに試しに使ってもらおうと、「人の声をうまく調整してくれるので、もしかすると簡単なやり取りの場合は補聴器より聞き取りやすいかも！」とのことでした。

高齢者の中には、補聴器をつけることに抵抗感がある人もおられますが、これならば気軽に使えそうですね。

操作も「耳にあてるだけ(自動的にスイッチが入ります)」と簡単ですし、なんととっても軽く手が疲れません！

センターにお立ち寄りの際は、ぜひ試してみてください！



他にもループ機器も備えています！



自動騒音抑制回路を搭載しているので、くしゃみや足音、ドアを閉める音など、突如の衝撃音を和らげ、目的の音をよりクリアな状態で聞くことができます。